

今日のトピック 鉄鉱石・石炭の価格動向

中国経済の成長に支えられ、底堅く推移しよう

ポイント1 石炭価格は上昇 鉄鉱石価格は軟調

- 石炭は、鉄鋼用原材料としてのコークス製造などに利用される原料炭で見て、16年2月初旬の1トン当たり約75ドルから16年11月の同300ドル台まで上昇しました。その後、同150ドルまでの下げを経て、17年4月中旬に同300ドル台に乗せました。
- これに対して、鉄鋼の主原料となる鉄鉱石の価格は、2016年10月初旬の1トン当たり約55ドルから17年2月下旬の同95ドル弱まで上昇しましたが、これを当面のピークとして下げに転じ、足元では60ドル台で推移しています。

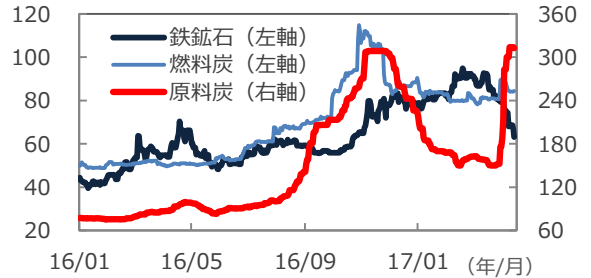
ポイント2 石炭は中国での需給が好転 環境保護のための生産抑制が寄与

- 原料炭の価格急騰は、①最大の需要国である中国が、環境保護のため石炭の生産を抑制していることに加え、経済制裁の一環として北朝鮮からの石炭輸入を停止した、②17年3月下旬に主要生産地である豪州北東部がサイクロン（熱帯低気圧）に見舞われた、などが影響していると考えられます。
- 他方、鉄鉱石価格の下落は、中国での港湾在庫の積み上がりによるものです。16年後半の価格上昇への緊急対応策として中国が輸入を増やした結果、一時的に供給過剰に陥ったもようです。

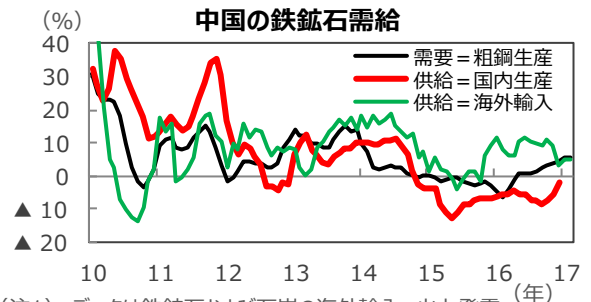
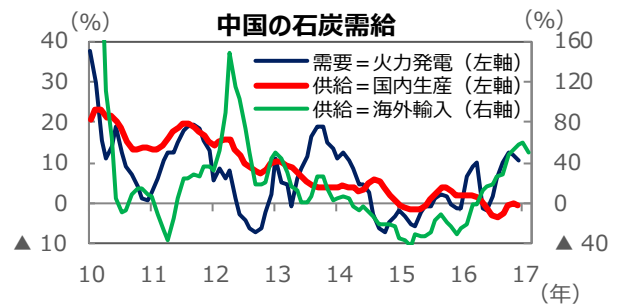
今後の展開 今後も底堅い展開となろう

- 石炭価格については、目先は急騰の反動も予想されますが、中国経済が順調な拡大軌道にあるため、概ね底堅く推移しそうです。中期的には、石炭から石油、天然ガス、再生可能エネルギーへのシフトを推進する中国政府の動向が注目されます。

(ドル/トン) 鉄鉱石、石炭価格の推移 (ドル/トン)



(注) データは2016年1月4日～2017年4月18日（日々）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成



(注1) データは鉄鉱石および石炭の海外輸入、火力発電が2010年1月～2017年3月、粗鋼生産が2010年1月～2017年2月、鉄鉱石、石炭の国内生産が2010年1月～2016年12月（月次）。

(注2) データはすべて3カ月移動平均の前年同月比伸び率。
(出所) 中国国家统计局のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

- 鉄鉱石は、今後、輸入数量が平常のペースに戻ると見られ、需給も改善に向かうと予想されます。つれて、価格の下落にも歯止めがかかる見込みです。

ここもチェック! 2017年4月13日 原油価格の動向（2017年4月）
2017年3月13日 OECDの「経済成長見通し」（グローバル）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。